

篠山フィールド ステーション

篠山フィールドステーションは、神戸大学と篠山市とが連携して、地域の新しい価値を創造し、地域課題解決と大学教育の充実をはかるための活動拠点です。

■沿革

- 2007年4月 篠山市と神戸大学大学院農学研究科との間で地域連携協定締結
「神戸大学農学部篠山フィールドステーション」開設
- 2010年8月 連携の枠組みをを農学部から全学に拡大し篠山市・神戸大学地域連携協定を締結
「神戸大学篠山フィールドステーション」に改称

■フィールド研究・教育推進支援



篠山フィールドステーションは、生きた現場に位置する拠点施設として、篠山市における体験学習および社会実験型学習の実施を支援しています。

本年度に篠山市で農学部の食農コープ教育として実施した演習は2つあり、1つ目は「実践農学入門(受入先:畑地区篠山市みたけの里づくり協議会)」で年6回現地実習と1回以上の地域活動を行い、参加学生は49名でした。2つ目は「実践農学(実施フィールド: A真南条上集落, B小多田集落/新庄集落/今谷集落/丹波並木道中央公園)」でテーマ毎に2班に分かれ、1泊2日の合宿を2回、校内学習を数回行い、参加学生は17名でした。それぞれの演習について、実習に必要な地域との連絡調整、演習の補助をおこないました。

農学部以外では、経済学部のESD演習や人文学部人文学研究科の地域歴史遺産活用企画演習(夏期古文書合宿)実施に関する支援をおこないました(詳細は裏面地域交流・まちづくり活動の支援参照)。

■教育研究活動や 市民活動の拠点づくり



篠山市を対象として、実習や調査を実施する神戸大の学生および研究者に対して、学習・研究スペースを提供しています。また、談話室及びセミナー室の一般開放と利用登録者を継続するとともに、大学や地域から寄せられた様々な情報を来訪者が自由に閲覧できる学習・情報交換コーナーを充実させてきました。

本年度は、学習・研究スペースとして学生や教員を中心に61名の利用があり、昨年度の12名から大きく利用者数が伸びています。談話室およびセミナー室の利用は、200件の利用があったが、そのうち新規利用件数が44件、リピーター件数は142件ありました。

また、今年度からオフィスアワー以外にも研究員が必ず1名常駐する体制をとり、地域の方々に気軽に足を運んでもらい、地域の幅広いニーズを収集する場としての機能の充実を図っています。

■地域共同研究

就学前発達障害児等早期支援システム構築

(篠山市健康課/神戸大学保健学研究科)

篠山市の健康課と公米大学保健学研究科が共同して行っている研究として、本年度は5歳児健康相談事業に関連して篠山市と下記のような活動が行われた。尚、発達評価シートと保護者質問票の結果については、現在さらに詳細な解析が進められており、随時報告がおこなわれる予定である。

【具体的な活動内容】

- ①第1回事業打ち合わせ（保健部会運営委員会）
- ②就学前発達障害児等早期支援システムに係るワーキング

- ③学前早期支援4・5歳児質問の実施（H23.7月）
- ④第2回事業打合せ（保健部会運営委員会）
- ⑤篠山市・神戸大学 大学協定記念シンポジウムへの参加
- ⑥子どもの発達支援講演会
- ⑦4・5歳児子育て相談日
- ⑧心理士による園巡回訪問
- ⑨保育士・幼稚園教諭研修会
- ⑩第3回事業打合わせ（保健部会運営委員会）

■地域交流・まちづくり活動の支援

赤じゃが加工品の開発支援



生産の過程で廃棄される赤じゃがの小芋を対象に、NPO法人ごみじゃぱんと（株）山崎パンのコラボ商品の開発が決定し、その課程をテーマとして扱っている神戸大学経済学部のESD演習Ⅰ(2011年度：履修生23名)に関して支援をおこなった。篠山フィールドステーションでは本プロジェクトにおいて真南条上宮農組合と経済学部との調整に関わっている。H23年度はプロジェクト設立にかかる会議の開催、赤じゃがの提供を依頼するなどの支援をおこなった。

文学部古文書合宿支援



日置地区中西家の古文書資料を使用した文学部の地域歴史遺産活用企画演習（夏期古文書合宿）に関し、篠山FSでは合宿開催のための打合せや合宿場所の提供などの支援をおこなった。合宿は9月3~5日の日程で行われ3日はオープンセミナーとして市民向けに演習を公開した。

これを契機に2012年度には人文学研究科地域連携センターと図書館による連携事業として、2つの講座を進めることが検討されている。

「農村ボランティアバンクKOBE」の登録・マッチング促進



農村ボランティアバンクは、地域のNPO（食と農の研究所）と農学研究科地域連携センターがすすめている事業で、農繁期等で労働力が不足する農家へ、農作業の体験・仕事を求める大学生やシニア層を派遣し、双方のニーズをマッチさせる仕組みである。現在登録者数は301名（2012年1月末現在）で、篠山FSでは篠山市内への派遣支援として、市内農家団体の新規登録の支援や、「篠山市担い手農業者協議会」と神戸大生との交流支援などをおこなった。

学生ボランティア活動団体への支援



現地実習への参加を契機に複数の学生ボランティア活動団体が設立され、それらの活動の送迎補助や宿泊場所提供等の支援をおこなった。2011年度はのべ269名の神戸大生が篠山を訪問し、里山の整備や農作業補助、イベントの盛り上げ等の活動をおこなった。はた祭を盛り上げる会(2012年3月より「はたもり」)では、はた祭で手ぬぐいスタンプラリー企画を実施し、県内外から77名を祭りへ誘致することを成功させるなどの活動成果が上がっている。

丹波の森・若者塾事業への支援



丹波の森若者塾事業において以下の二つについて支援を行った。「農業を通しての地域・大学の交流」では篠山東雲高校と連携し、大学生の現地実習受入先に高校生を派遣し地域・大学・高校生間の交流を支援した。「フォトコンテストによる篠山市の魅力発見」では篠山鳳鳴高校と連携し、本校生徒によるフォトコンテストの運営支援を行い、成果は文化祭で展示された。また丹波地域4大学フォーラムでもブースを設けて展示した。

オープンセミナーの実施



昨年度の4回から大幅に回数を増やし、本年度は毎月1回のペースでオープンセミナーを開催した。計12回の実施でのべ355人の参加があった。

講師による話題提供と、参加者全員によるディスカッションを組み合わせ、課題に関して参加者で解決方法を模索する場を設けることを目的としている。話題提供者が多様で参加者との対話に重点を置いているのが本セミナーの特徴である。

講師・アドバイザー等派遣

篠山楽農スクールや、丹波の森大学等、篠山市内で開催されるイベントに神戸大の教員らを講師として派遣した他「環境みらい会議」や「自治基本条例検証委員会」などに駐在研究員がアドバイザーや委員として出席した。

■相談情報発信窓口



●相談受付時間●

事前予約制(電話・FAX・HPで予約を受け付けています)
篠山市東新町4番地5 連絡先:079-506-2366(TEL&FAX)
E-mail:sasayamafs@kobe-face.jp
HP:<http://kobe-face.jp/sasayama>

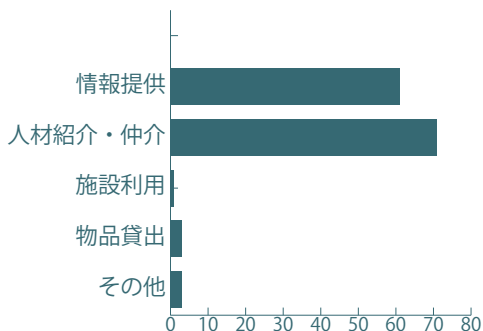
週2回のオフィスアワーと市民プラザにおける出張窓口を実施し、合計142件の相談に対応した(9%増加:昨年度比)。平均して1月に約13件の相談があった。相談者の属性をみると地域団体(36件)が最も多く、次いで行政職員(26件)であった。

2011年2月からは、オフィスアワーを廃止し、事前予約制を導入することで、利用者はオフィスアワーに縛られることなく希望の時間に利用することが可能となった。

2011年度 相談情報発信

神戸大学と地域をつなぐ窓口として、共同研究や地域活動に関する相談に応える他、地域における活動を促進するための情報発信を行っています。

2011年度の相談概要



市民プラザ出張窓口

2011年度は週に2回の自由相談時間（オフィスアワー）に加え篠山市の市民活動創造拠点である「篠山市民プラザ」において出張窓口を実施した。この他にもメールや電話、FAXなどでも随時相談を受け付け、2011年度は合計142件の相談に対応した。

相談内容の内訳では142件中最も多かったのが人材紹介・仲介に関する相談で71件、次いで情報提供に関する相談が61件であった。

出張窓口は、4月～5月に市民協働課および市民プラザの担当者と実施方法を検討し、5月にプレオープン、6月から正式に開始した。窓口では、市内で実施した演習のビデオ放映や、神大生の市内活動予定の掲示、FSセミナーのチラシ配布を行って情報発信に努めており、それらに関する市民からの相談と雑談が毎回各1件程度寄せられた。この他、出張窓口は一般社団法人ノオトの職員と情報交換や意見交換を行う機会になっており、その機会は里山整備や農村ボランティアバイトなどの共同企画の立ち上げやその円滑な運営につながっている。

- 自由相談時間（FS） 毎週 火・木曜日 13:00～17:00
- 出張窓口 毎月第2・4木曜日 13:00～16:00

情報発信

Webの利用



篠山フィールドステーションではHP上で各種お知らせや活動報告などを行っているほかTwitterを活用してスピーディーかつ双方向な情報発信を行っている。

- HPのURL: <http://kobe-face.jp/sasayama/>
- Twitterのアカウント: SasayamaFS

現在、SasayamaFSのアカウントのフォロワー数は143件である（2012年4月現在）

情報誌への掲載



篠山市内広報誌「広報丹波篠山」に六甲篠山でんしょばとというページを連載し、セミナーやオフィスアワーに関する情報配信や学生サークルの紹介、地域連携シンポジウムの紹介、篠山現地実習の活動報告などの大学と地域の連携事業を市民向けに紹介している。

神戸新聞社発行「にゅーひょうご」に実践農業入門の活動とともに篠山フィールドステーションの活動が取りあげられた。